

バイオリンは武器じゃない



ポップバイオリニスト・作曲家

式町水晶さん

脳性麻痺という障害をかかえ、「プロのバイオリニストになる」という夢をかなえた式町水晶さん。いじめを受け、強くなることにとらわれた心を、変えたものは何だったのでしょうか。

リハビリのために始めたバイオリン

未熟児で生まれたぼくは、3歳の時に脳性麻痺*と診断されました。小脳の大きさが、ほかの人の半分以下で、手足に麻痺があります。リハビリのため、4歳からバイオリンを始めました。5歳で緑内障*も見つかりましたが、このころには短い曲は耳で聞いただけで、弾けるようになりました。そして、祖母のすすめもあり、老人ホームで初めて多くの人の前で演奏をしました。とてもよろこんでくれて、うれしかったのを覚えてます。小学校は、最初は特別支援学級や盲学校へ通ってました。症状が落ちついてきたこともあり、5年生から通常学級に通うことにしました。

強くならなければいじめられる!?

6年生の時に転校した学校で、いじめにあいました。クラスメイトに無視されたり、歩き方をからかわれたりしました。元々そのクラスには、いじめられていた子が数人いたようでした。ぼくが転校してきたことで、ターゲットがひとりになったわけです。今までいじめられていた子も、いじめっこに命令されたら、自分を守るために、ぼくをいじめないわけにはいかないという、いやな空気がありました。いじめを受けた経験から、人は自分より強い人には逆らえないんだな、障害者ってこんなに弱い立場なんだなと思うようになりました。それでは、強くなるしかありません。まず考えたのが、バイオ

リンをたくさん練習することです。ひとつのことが得意になると、自分に自信が持てるし、人からの評価も変わってくるにちがいありません。そして、体をきたえ、勉強をがんばりました。中学生になって成績がよくなると、言葉には出さなかったのですが、人のことを見下すようになっていました。バイオリンも好きだからというより、人と戦う武器として、特技にしようとしていました。今思うと、ぼくの性格が、どんどん悪くなっていった時期でした。

被災地で人のやさしさに触れて 価値観が変わった

2011年3月、東日本大震災が発生しました。当時ぼくは、中学2年生でした。被災地の映像を見て、ぼくはいてもたってもいられない気持ちになりました。少しでも役に立ちたい、せめてバイオリンの演奏を聞いてもらいたいと思い、まず6月に福島県の二本松市へ行きました。

演奏を聞いてくれたみなさんは「式町さんも体のことで大変だと思いますが、わたしたちも希望を持ってがんばっていくから、また元気に再会しましょうね」と、反対にぼくをばげましてくれました。ぼくは、うれしかったのと同時に、すぐはずかしくなりました。もし、ぼくが同じ立場だっ



5歳のころの式町さん。

たら、相手にやさしい言葉をかけることができるだろうかと、打ちのめされました。バイオリンを武器にしようとしている、今の自分じゃだめだと思いました。自己満足なんかじゃなく、ぼくの演奏を聞いて、だれかに少しでも元気になってもらいたいと思いました。

こうした出会いを通じて、バイオリンは武器じゃなく、ぼくのかげがえのない宝物だと思えるようになったのです。

ひとりで背負って がんばりすぎないで

いじめを受けると、自分が弱くてだめな人間だと思ってしまうんです。自分が情けなく、みじめに感じてしまって、親にも言いづらくなります。でも、そんなことはありません。悪いのは、いじめている側なんです。だから、自分に「これまでよく耐えたね。だからこれ以上がんばらなくていいよ」と言ってあげてほしいです。

話を聞いてくれて、動いてくれる人は、きっといるはず。だれかに相談するのは、ハードルが高いかもしれないけど、ひとりで背負わず、なるべく早く相談してほしいと思います。



コンサートのリハーサルに組み込む式町さん。